



ベスト シーニックバイウエイズ プロジェクト2023 受賞プロジェクト一覧



シーニックバイウェイ北海道推進協議会

活動名称

サスティナブルな景観づくりマスタープランの再構築と実施

エントリー部門

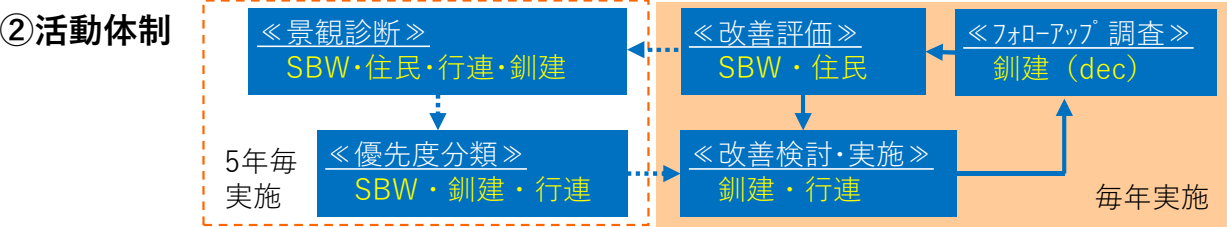
美しい景観づくり

ルート名称

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の背景
 - ・H19の景観診断は経験や知識が少なく、改善不可能な課題箇所も多く抽出していた
 - ・H20のルート景観づくりマスタープランは、持続的改善の仕組みがなく形骸化した
 - ・H25からの道路附属物改善では、**時限的で持続可能な改善計画を構築**して試行
⇒ **成功！**5年間で63箇所を改善 ⇒ H30年度に「美しい景観づくり賞」をいただく
- 活動の目的・目標
 - ・時限的で持続可能なルート景観マスタープランを再構築し、継続的に景観を改善する
- 具体的な取り組み（活動期間と活動場所）
 - ・R05に全エリアの景観再診断が完了し、**新しいマスタープランが完成**（表1）
 - ・再診断後のエリアで、改善が実施されていることをフォローアップ調査で確認



③P Rポイント

【工夫した点や苦労した点】

- H20の景観課題箇所と新規課題箇所(秀逸な道など)の合計200箇所を再診断
 - ・改善不可能な課題箇所を除外しつつ、秀逸な道などの新たな課題箇所を抽出
- 再診断の結果を踏まえた優先度分類と対応ルールの明確化（表2）
 - ・**優先対策検討箇所**－改善検討・実施（改善できない場合には理由を明示）
 - ・**対策検討箇所**－将来的な改善に向けた現地確認、情報収集
 - ・**経過観察箇所**－マスタープランの景観課題箇所に残して経過観察
 - ・課題箇所から除外－マスタープランの景観課題箇所から除外
- 持続的に実施するための時系列的なルール
 - ・毎年実施する項目と、5年に1回実施する項目をルール化し、改善を継続
 - ・フォローアップ調査と評価を毎年実施し、地域の景観改善意欲を持続

【活動による効果】

- 令和5年度時点で改善が完了した箇所数
優先対策検討箇所：14箇所 対策検討箇所：3箇所 経過観察箇所：1箇所

表1 新しいルート景観づくりマスタープラン構築に向けた取り組み

年度	景観再診断	景観改善の実施				フォローアップ調査
		弟子屈	阿寒湖	中標津	釧路湿原	
H30	弟子屈エリア	2箇所	診断前	診断前	診断前	全箇所実施
R01	阿寒湖エリア	9箇所		診断前	診断前	全箇所実施
R02	※COVID-19で延期			診断前	診断前	全箇所実施
R03			2箇所	診断前	診断前	全箇所実施
R04	中標津エリア	1箇所		2箇所	診断前	全箇所実施
R05	釧路湿原エリア			2箇所		全箇所実施
新しい「ルート景観づくりマスタープラン」が完成						



表2 景観再診断の実施箇所と優先度に応じた分類結果

エリア名	課題箇所の再診断		優先対策検討箇所	対策検討箇所	経過観察箇所	課題箇所から除外	改善完了（R5時点）
	H20抽出	新規箇所					
釧路湿原	29箇所	1箇所	1箇所	5箇所	13箇所	11箇所	0箇所
阿寒湖	21箇所	1箇所	1箇所	6箇所	6箇所	9箇所	2箇所
弟子屈	33箇所	74箇所	22箇所	4箇所	10箇所	71箇所	12箇所
中標津	10箇所	29箇所	9箇所	13箇所	10箇所	7箇所	4箇所
合計	93箇所	105箇所	33箇所	28箇所	39箇所	98箇所	18箇所

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

- 苫前町古丹別地区流雪溝は、高齢化や空き家・空き店舗の増加等から流雪溝利用率が低下し、沿道に積もった雪山により日常生活・道路交通に支障をきたす状況である。
- 平成27年度より雪処理の担い手確保に向けた「投雪ボランティアツアー」とその発展形である「流雪溝インフラツーリズム」の商品化を試行し、交流・関係人口の拡大のアプローチから課題解決を試みた。
- コロナ禍を経て、現在は町内の共助力の底上げを図るとともに、同様の課題を抱える増毛町との地域間共助を促進することで、流雪溝の活性化を通して住み続けたい地域を両町で目指す。

●活動内容 平成27～30年度 1) 既存協議会に、他団体（社協・消防・道路管理者等）も加えた拡大意見交換会（「流雪溝を考える会」）

活動期間： 令和元～2年度 2) 雪処理の担い手を受け入れるための「投雪ボランティアツアー」の試行

令和3～4年度 3) 流雪溝を活用したインフラツーリズムの商品化に向けた試行

令和5年度～ 4) 流雪溝運営協議会の再編／5) 古丹別地区内一斉投雪作業の実施

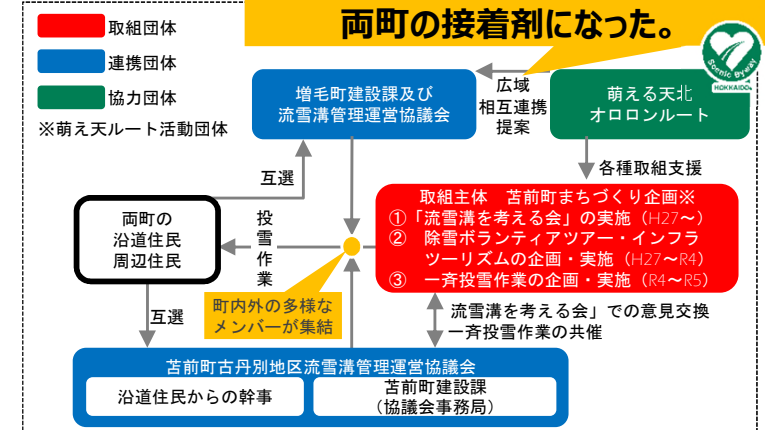
令和5年度～ 6) 増毛町との留萌管内一斉投雪作業実施

《「流雪溝」とは？》

- ◆ 車道除雪で歩車道境界に寄せられた雪を沿道住民が各自で流雪溝に投雪し、流水で河川まで移動処理するインフラ。そのため供用区間でのダンプ排雪は、基本的に行われない。
- ◆ 道内28市町村36箇所のべ延長約174kmの流（融）雪溝が供用中で、多くは第5期北海道総合開発計画（昭和63年）「ふゆトピア事業」の一環で整備。
- ◆ 流雪溝の運用方法は、供用時から続く流雪溝管理運営協議会で検討される。

②活動の体制

【創意工夫した点】萌え天ルートが両町の接着剤になった。



流雪溝を活用したインフラツーリズム商品化

投雪作業

インフラ見学

実施日：令和2年2月15日～16日

プログラム：流雪溝関連施設の見学、地域住民との投雪作業、漁港見学等

【創意工夫した点】旅行企画・実施は地元旅行会社とタイアップ

管内一斉投雪作業（「留萌 流雪溝の日」）

苫前町古丹別

増毛町

実施日：令和6年1月27日～28日

プログラム：交互日開催による地域住民との投雪作業等

【創意工夫した点】相互参加で、人材と一斉投雪作業の運営ノウハウを共有

③PRポイント

【創意工夫した点】①既存協議会の枠を越えた多様なメンバーで流雪溝利活用方策を検討／②「インフラツーリズム」の概念を援用し、留萌市内の旅行会社と協働で旅行商品を開発（①・②で、第16回土木学会北海道支部地域活動賞 受賞）

【苦労した点】コロナ禍により活動方針の転換に迫られたが、「内（うち）の力」の底上げと地域間共助への気づきを得た。

【活動による効果】①管理運営協議会を「官から民」主導に再編／②同様の課題を抱える地域と連携を促進し、人口減少下の流雪溝の持続可能性と地域の在り方（流雪溝版コンパ・外・プラス・ネットワーク（地域間共助・連携による流雪溝を核とした雪に強いまちづくり））を考える同志と発想を得た。

活動名称

～地域との連携・企業との連携そして国際的サイクルエリアを目指して～
どうなんサイクルツーリズム推進事業

エントリー部門

活力ある地域づくり

ルート名称

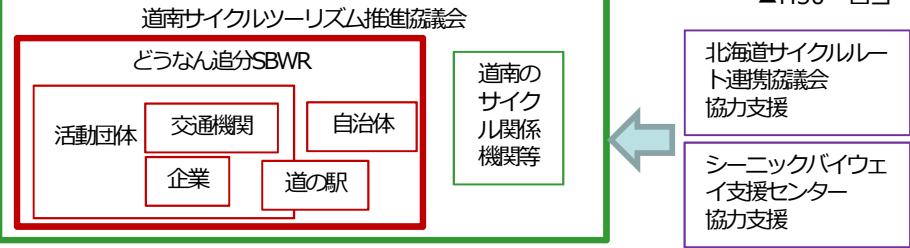
どうなん・追分シーニックバイウエールート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標： ルート最大の魅力である歴史・文化に触れながら交通過疎地帯の道路活用・観光・SDGsに着目し広域のサイクルツーリズムを国内外に向け進め、官民連携で交流人口の拡大・地域経済の活性化を図る。また地域全体のサイクリングの受入・走行環境整備と情報発信を行う。
- 活動内容：
 - ・2018年（H30）協議会設立。道の駅等にラック等整備。道南連携。
 - ・2019年（R1）海外(台湾)との連携ツアー開催。エリアサイクルガイド養成講座開催。
 - ・2020年（R2）「マグロ女子会」とコラボ青森連携ツアー開催。コースマップ作成。
 - ・2021年（R3）全国初自転車搭載バスと道南いさりび鉄道とツアーで連携。公共交通に自転車をそのまま搭載し移動し、周遊する継続的な実証及び試行を行った。
 - ・2022・23年（R4～5）企業連携として五勝手屋とアスリート羊羹開発。
 - ・2023年（R5）北海道サイクルルート10番目のルート登録。

●活動期間：2017年度～2023年度（継続中）

②活動の体制



▲R5_10番目サイクルルート登録

③PRポイント

【苦労した点や工夫した点】

- ・地域の自転車愛好家プレイヤーの協力不足。支援協力への普及活動の強化。
- ・地域や企業への理解や認知を得るための自治体を絡めた全体への情報共有。

【活動の成果】

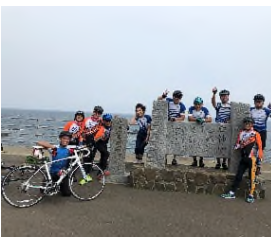
- ・サイクルツーリズムの活動が地域に浸透し、函館バス・道南いさりび鉄道等公共交通機関・道の駅等の休憩施設・宿泊施設等にも着実に拡大した。
- ・地域老舗企業と連携し、アスリート羊羹を開発。地域経済に活動を繋げる。

【今後の活動予定等】

- ・2024年9月にアイアンマンジャパンみなみ北海道大会開催。国際大会の開催により地域の知名度の向上、大会の継続開催及び地域の再生と経済効果の向上。
- ・今まで積重ねた連携事業を実践として活用し、新たな課題への取組に繋げる。



▲H30道南連携モニターツアー



▲R1台湾(海外)連携サイクルツアー



▲R2青森(マグ女)連携サイクルツアー



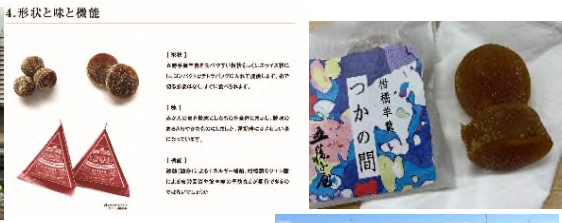
▲R1～自転車搭載函館バスの活用 ツアー時ほか



▲R3～道南いさりび鉄道自転車搭載 ツアー時（七重浜駅～札苅駅間）



▲R4～5 五勝手屋（創業150年）地域老舗との商品開発



▲R6.9国際大会開催決定



▲アスリート羊羹と休憩時

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 目的・目標／ルートのメインリバー『天塩川』を軸に、ルート内の資源を繋げ、地域の歴史・文化に触れ・学び、地域特性を活かした新たな広域的な観光周遊ルートの商品造成と地域経済の活性化へ繋げる
⇒【観光客】魅力的で多様なコンテンツの提供による再来訪(リピーター)への期待、地域ファンの増加
【地域(ルート)】観光消費の増大、雇用の確保(ガイド等)、地域への愛着の醸成(魅力の再確認と共有)

- 活動内容／**道内**:道北地域への来訪を意識しながら、ルートメンバーが主体となって地域資源と歴史について紹介・PR、ツアー運営を行った。
道外:武四郎の生誕の地がある松阪市において、「天塩川」を通じて地域を知ってもらうための広報・PRを行った。

武四郎まつり

とき 令和6年2月25日(日)
ところ 三重県松阪市「松浦武四郎記念館」他

道外

②活動体制

道内

インフラツーリズム
モニターツアー

とき 令和5年9月30日(土)・10月1日(日)
ところ 下川町～名寄市～美深町(札幌発着)
★インフラ/サンルダム、天塩川

- 《配布・PR》天塩川シーニックと北海道遺産でPRブースを設け、シーニックバイウェイの取組みや北海道遺産(天塩川)の紹介、北海道のドライブ観光などのPRを行った。
- 《パネル展示》シーニックドライブマップや松浦武四郎足跡、天塩川の歴史等の紹介のパネル展示を行った。
- 《特産品販売》音威子府村の活動団体nociw(ノチウ)の協力により、天塩川流域地域の商品の販売(音威子府村、名寄市、美深町)や、パンフレットの配布などを行った。



- 《受け入れ》ツアー行程は、ルートメンバーと旅行会社、開発局で共に創り、各箇所の紹介や体験は各地域の担当者がリレー式で担当した。



- 《地域のおもてなし》天塩川SBW(9市町村)のおもてなしとして、特産品を参加者へ提供。ご当地クラフトビールやジン、天塩川の水を使用した飲み物、地域食材を使用した商品を試食を戴いた。



③PRポイント

【総意工夫した点】

- ・各地域の個別の紹介・PRではなく、全体で「天塩川」を軸に繋がりのある企画とした。
- ・参加者・来場者との会話できる時間を重要視し、交流・コミュニケーションを多くとれるよう工夫した。
- ・ツアー参加者に試飲・試食いただいたものは、ツアー中に立ち寄れる先で購入できることを説明、PRを行った。★できないものは逆に特別感あり!
- ・ブースもツアーも「今だけ・ここのけ」の体験や情報を多くし、特別感のある時間を提供した。

【活動による効果(成果)】

- ・北海道に興味のある人・住んでいた人、天塩川でカヌーした人、音威子府蕎麦を買い求めてくる人など様々な想いで立ち寄ってくれ、会話を通じて地域の良さを知った。
- ・松阪市民の武四郎に対する想いや知識も豊富で、北海道との繋がりを感じられた良い時間であり、広報・PRを継続して行っていくことの重要性を感じた。
- ・「サンルダム」(インフラ)が観光コンテンツ(資源)になることを、ルート内のメンバーで共有でき、新たな観光の可能性を感じた。
- ・地元ガイドの育成などの重要性も感じるとともに、おもてなしの時間(飲食の提供)が好評価であったため、モチベーション向上に繋がった。

活動名称

～“流氷を見ながらドライブを”地域のおもてなし活動を継続中～
R334ガードレールの雪かきボランティア活動

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

東オホーツクシーニックバイウェイ

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

- ＊冬期の知床を訪れる観光客や来訪者の皆さんに、ドライブする車窓から流氷景観を楽しんでもらおうという目的で、道路管理者や沿道の地域団体、民間企業等が連携した、おもてなしの取り組み。
- ＊通常の歩道除雪ではガードレール部分に雪壁が残り、海への眺望が妨げられてしまうため、参加者の手作業での雪かきによって、道路から流氷への眺望景観を確保。

●活動内容：機械除雪では取りきれないガードレールに残った雪を、ボランティアで集まった皆さんがスコップなどで除雪し、貴重な観光資源でもある国道からの流氷景観を確保する。

●活動期間：平成20(2008)年度～令和5(2023)年度 ※継続活動中

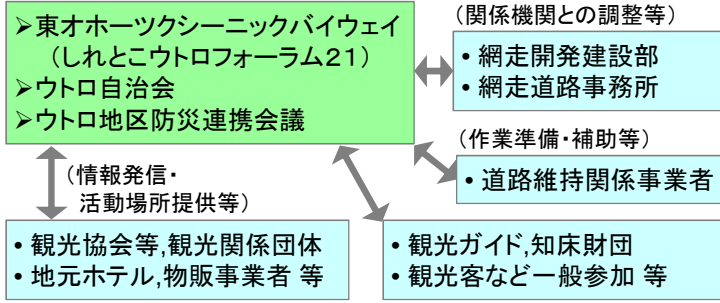
＊実施場所：国道334号斜里町ウトロ区間（秀逸な道区間）



平成20(2008)年度から始めたおもてなしの取り組みは、多くの皆さんの参加・協力をいただき継続中！

②活動の体制

- ＊東オホーツクシーニックバイウェイ（しれとこウトロフォーラム21）、ウトロ自治会、ウトロ地区防災連携会議、網走開発建設部、観光関係事業者、道路維持関係事業者など、約170人が参加。



③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ＊地区防災計画の策定と連動させて「厳冬期の避難訓練」と併せた開催も実施。
- ＊コロナ禍では開催方法等を工夫した「ソーシャルディスタンスな雪かき」等も実施。

【活動による効果】

- ＊活動を通じて、道路事業の内容を地域の方に説明したり、道路の課題をヒアリングするなど、情報提供と情報共有の場としての効果も生まれた。
- ＊冬期の避難訓練と併せた実施やコロナ禍での取り組みなどが認められ、令和4年(2022)には「手づくり郷土賞(大賞部門)」を受賞。

<雪かき前>



<雪かき後>



<地元の子供たちも参加>

ちょうど車窓の高さからの眺望の支障になる雪壁を、皆が手作業で除雪してドライブ景観を確保



<感謝状を贈呈>

雪かき作業にも参加いただいている除雪事業者の皆さんに、日頃の感謝も込めて